

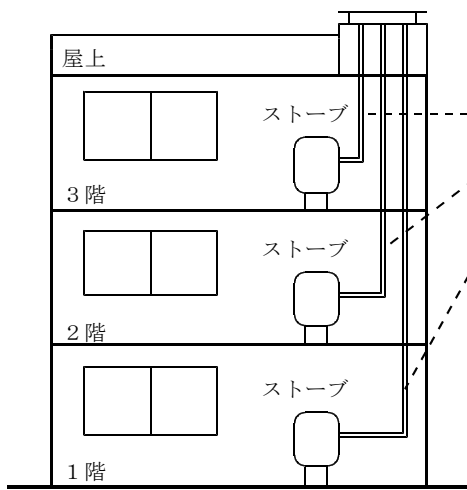
石綿含有保温材等の使用状況調査（特定調査）における
煙突用断熱材使用状況調査票（様式2、様式3）の
再確認事項について

再確認事項

1. 各様式に記載された煙突が、調査対象の煙突か再度、御確認ください。

ストーブ排気用の煙突（下図参照）については、煙突用断熱材が使用されている場合は対象ですが、**石綿セメント円筒等のみが使用されている場合は対象外**です。どのような材料が使用されているか、改めて御確認ください。（特に内径の小さい煙突は御注意ください。）

再チェックの結果 { 煙突断熱材の場合は、記載内容を再確認の上、再提出。
石綿セメント円筒等の場合は、データを削除。



ストーブ排気用の煙突の例

※ ストーブ排気用の煙突の取扱い

- ・石綿セメント円筒等のみが使用された煙突の場合は対象外。
- ・煙突用断熱材が使用された煙突の場合は対象。
(この例の場合で、煙突に煙突用断熱材が使用されていた場合は煙突3本となり、それぞれの長さを計上。)
- ※3本の煙突を1本として計上したり、それぞれの長さを合算したりしない。
- ・煙突用断熱材が使用されているか不明なまま計上しない。調査した上で煙突用断熱材が使用されているもののみを計上。

○石綿セメント円筒と煙突用断熱材の違い（写真例）

石綿セメント円筒等【調査対象外】	煙突用断熱材【調査対象】									
<p>管の厚みが比較的薄く断熱層がなく管そのものに石綿が練り込まれているもの</p>	<p>断熱層があるため比較的厚みがある（一概には言えないが30mm程度か、それ以上の場合もある</p>									
<p>〈主な使用部位と用途〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・換気用円筒材、煙突、雑排水管などに使用されている。 <p>メモ：石綿が使用されていても石綿セメント円筒のように管として成形されたものは、飛散性が低いため、いわゆるレベル3の建材であり本調査の対象外である。</p>	<p>〈主な使用部位と用途〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・煙突の断熱目的のために使用されている。（煙突用断熱材は、石綿セメント円筒等のように雑排水管には使用できない） 									
<table border="1"> <tr> <td>石綿含有の有無</td> <td>有</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td>様式2</td> <td>保有状況及び①～④に回答</td> <td>保有状況のみ回答</td> </tr> <tr> <td>様式3</td> <td colspan="2">石綿含有率以外のすべての項目に回答が必要</td> </tr> </table>	石綿含有の有無	有	無	様式2	保有状況及び①～④に回答	保有状況のみ回答	様式3	石綿含有率以外のすべての項目に回答が必要		
石綿含有の有無	有	無								
様式2	保有状況及び①～④に回答	保有状況のみ回答								
様式3	石綿含有率以外のすべての項目に回答が必要									

2. 様式3の記入方法が誤っていないか再度、御確認ください。

様式3の記入に当たっては、数値は全て半角で御記入ください。

- ① 同じ内径・同じ長さ、同様の劣化状況等であっても、煙突1本ごとに1行に御記入ください。

煙突1本ごとに各事項について御記入ください。そのため、**本数欄は必ず1になります**。建物区分欄、使用状況欄、石綿含有状況の有欄・無欄及び劣化の有無欄には1か0になり、相対する欄に同じ数字は入りません。

※煙道が複数ある場合は、煙道ごとに煙突1本として計上ください。

※特定調査における煙突用断熱材使用煙突調査は、煙突への石綿含有の有無を把握することも調査目的の一つですので囲い込み等の「措置済み」状態であっても把握するよう努めてください。（保温材のように石綿含有不明での報告は原則考えておりません。）

※特定調査は平成26年10月1日時点の調査ですが、本事務連絡による再確認の提出期限は平成27年2月27日となっており、約5箇月間の期間があくので、その間に調査や対策工事等を実施したもののについては、最新の情報に更新してください。なお、公表の際には10月1日時点の数値のみではない旨の記述を検討しています。

- ② 記入方法が様々で、データとして扱いづらいものになっています。記入例に合わせて御記入ください。

建築年は「昭和00年又は平成00年」、煙突長さは「小数点以下を四捨五入して整数（**m単位**）」、煙突太さは「小数点以下を四捨五入して整数（**cm単位**）」、石綿含有率が不明の場合は「0」、劣化の有無欄は、石綿の含有がない場合は有欄・無欄とも「0」、等としています。御確認ください。

※煙突長さや煙突太さについては、概ねで構いませんので、**必ず数値を御記入ください**。

※「約」であったり、「φ」などの単位は記入せず、数値のみ御記入ください。

※石綿含有状況の有無、劣化の有無が、専門家等に依頼する関係で、どうしても不明となってしまう場合は、有欄・無欄とも「0」を御記入ください。

※措置状況については、措置済みの場合は「済」、措置済みでない場合は「未済」に分類して、いずれかの文字を御記入ください。（工事中や予定など他の文字は記入しないでください。）

- ③ 数値の記入ミスが見受けられますので、今一度御確認ください。

煙突長さ、煙突太さにおいて、**図面のmm単位をcmと誤解して記入していると思われる例が多々見受けられます**。建築図面は単位表示がない場合は一般的にmm単位で表示されています。実際の大きさを確認しながら、特に内径が100cmを超える煙突は学校ではあまり設置されない相当大きな煙突ですので、御確認ください。

- ④ 空欄部分については、記入して御提出ください。

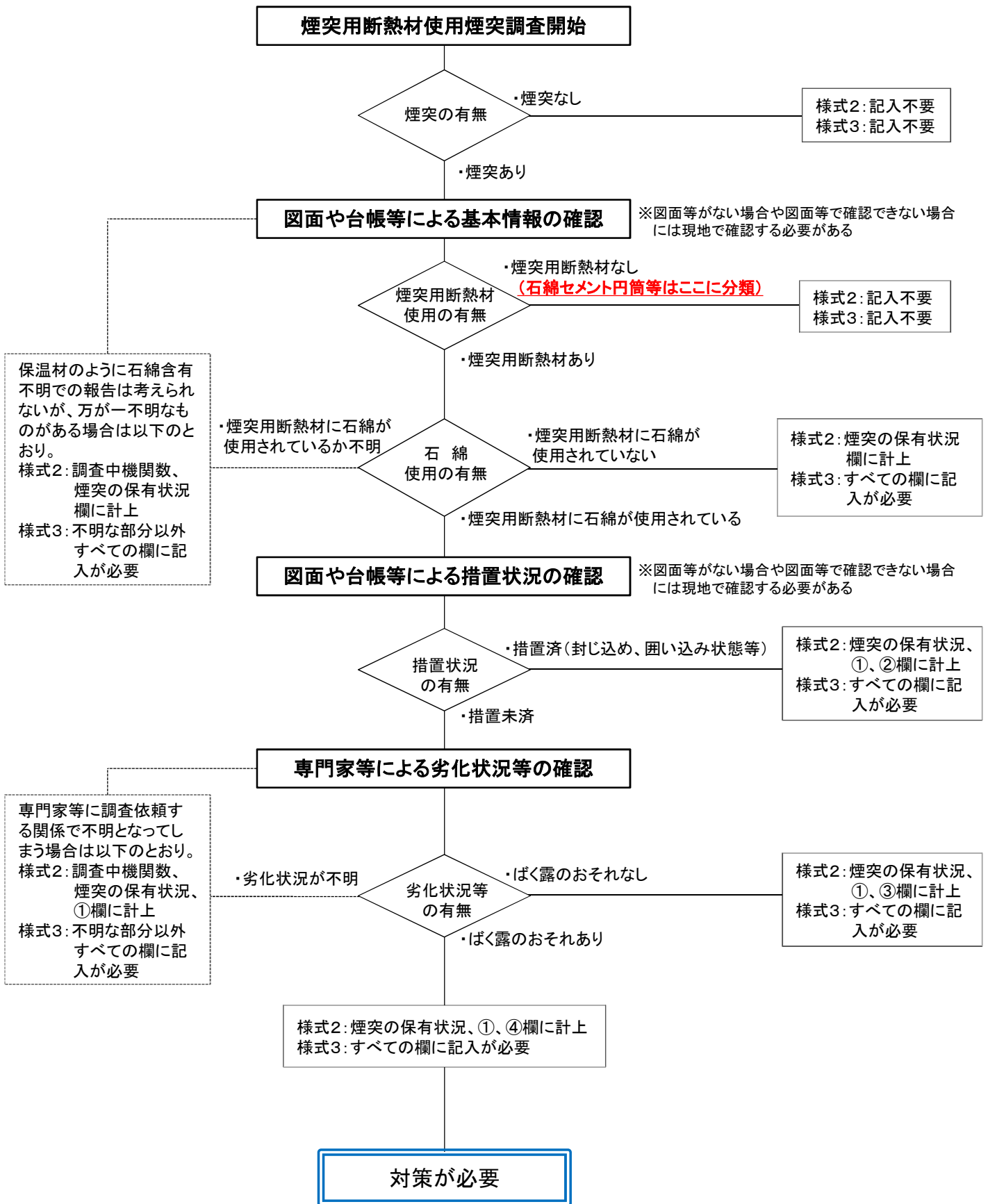
※市区町村名等の欄については、地方公共団体においては記入いただきますが、独立行政法人等においては記入は必須ではありません。

3. 様式2の修正について、御確認ください。

- ① 様式3の修正がある場合は、併せて**様式2も修正してください**。

ストーブ排気用の煙突の再確認によって、煙突の本数が大きく減少することもありますので、様式3と併せて様式2も修正してください。

煙突用断熱材使用煙突調査フローチャート



※様式の記入にあたっては、別紙(再確認事項)及び様式2記入例、様式3記入例を参照すること。